

● 面接5

家族との人間関係のことで問題と思われることを紙に書きだしてみることにする。

A子、B子とも10項目ほどになり、しかも共通しているものが多いのに驚く。

そのことをもとに、家族内での自分たちの立場、意識せずに果たしてきた役割などについて話し合う。家族のだれもがある役割をになって生きていることに気づき、驚く。

● 面接6

社会のできごとについていろいろと意見をきかせてほしいと提案する。

いろいろなできごとについて話すうちに、みんな自分勝手に好きなことをやっていて、他人のことを考えていないようだといふ。

家族の中にあつた迷ひみたいなものが、社会にもあつて、みんなそれに動かされているように思えるという。

そこで、担当者から、社会体制を維持するために存在する規則、法律……規範の存在について話す。

● 面接7

B子が突然、A子はたよりになる姉のような気がするといふ。

二人の交友関係の背景にある心理とグループ内での役割に気づく。

● 面接8

A子が家族、特に母と家族内の関係について話す。

母は、このごろ兄の苦しみをわかってきたようだといふ。

「負うた子に教えられるってこのことだね」といっていたという。でも祖母はわからないだろうといったことを話す。

B子も、姉といろいろ話しているうちに、父や母の気持ちが少しわかってきたような気がするという。

二人で家族内の人間関係などについて話し合い、自分たちの見方が変わっていることに気づく。

今まで、あまり意識されなかったことがかなり

明確になり、よい変化のきざしととれる。

(3) 後期

進路について、具体的に動機づけをはかり、それぞれ別の道を歩ませることにより、二人の交友関係が改善され、新しい交友関係ができるように配慮する。

学級担任からの報告では、中期の終わりごろ（面接7・8）から、二人の関係に微妙な変化が起こり、常に二人で行動していたのが、休み時間などには、別のクラスメートと話をしている様子が見られるようになっている。

指導仮説 ④ ⑥ ⑦

面接 3回（合同で1回、両名の提案で個別に1回づつ） 10月

● 面接9

A子とB子と一緒に来室したが、席のとり方が変わった。

前回までは、二人が比較的近く座り、それと対面する形で担当者が座っていたのが、今回は、正三角形に近い型になった。

今日から二人の進路について話をしようという提案すると二人とも了解。

A子は、やはり家業は兄が継ぐのがいいと思うし、母もそのことに賛成してくれているので、進学して、何か将来独立できるようにしたいという。

一方B子は、あまり学問に興味がないので専門学校に進んで、手に職をつけたいという。

A子の提案で、次回は個別に話し合いをすることにし、B子も進む方向が違うのでそれでよいと承諾する。

● 面接10 B子との面接

父母に相談したが、将来のことはB子にまかせるといわれた。

専門学校にすすみたいという、父はすぐ賛成、母は教師になってほしいと思ってきたが、B子がどうしてもというならいいということであった。

専門学校といっても種々あるので、具体的なことは学級担任を通じて、進路指導の先生と相談するようにすすめる。